

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

由布市長 相馬 尊重

市町村名 (市町村コード)	大分県由布市 (442135)	
地域名 (地域内農業集落名)	竹の中 (竹の中)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月20日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

地域内で主に栽培している作物は水稻、イチゴ、麦である。農事組合法人の構成員と認定農業者を中心に経営している。農事組合法人は水稻を中心に、認定農業者は水稻のほか椎茸やイチゴなども栽培している。現在取組を行っているものは鳥獣被害防止対策、農地の保全・管理である。地域が抱える課題として農業者の高齢化、農業にかかる経費の増加、農家収入の低下、新規の担い手不足、遊休農地の増加、鳥獣被害の増加が挙げられる。これらの課題の原因や理由として主に挙げられるのは燃料、肥料、農薬の高騰である。

主な作物:水稻、イチゴ、麦

(2) 地域における農業の将来の在り方

担い手確保のため地域で新規就農希望者との交流を図ること、地域の良いところを積極的に情報発信し、移住促進を行うことを目指す。また地域の所得向上に向け作物のブランド化、企業による農業参入に取り組みたいと考えている。現在、地域では、農協に頼らない作物の販売に取り組み、地域の所得向上を目指している。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	32.1 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	32.1 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
・農事組合法人と認定農業者を中心となる経営体として位置づけている。また地域には新規就農者もいるため、新たな担い手として交流を継続していきたい。 ・農用地の集積、集団化を進めるため、地域以外の人を作業員として募集していきたい。当面は低コスト化を図りながら現状を維持していくが、今後離農者が出た場合は、組織を中心に農地を集積し、耕作放棄地にならないよう農地の保全に努める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
農地中間管理機構の活用のため、情報収集を積極的に行い、将来活用できるか検討を行いたい。
(3) 基盤整備事業への取組方針
一部基盤整備済み。未整備の地域は農家が高齢化のため、今後取り組む予定なし。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
・ゆふ農林業サポート人材バンクとも連携して確保・育成を進める。 ・部外者を嫌わず、受け入れる環境づくりが必要。(過去、数名移住者が来たが全員うまくいかず出て行ってしまったため)
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針
特になし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

- ①防護柵の点検及び修繕を行っている。
⑦引き続き中山間事業を活用し、管理等を行って行く。